

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		持続可能な救急医療を目指して	愛媛県松山市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	カレンダーで！予防救急啓発プロジェクト！！		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	Zenith-Mind		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択一		2. 学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	平本宗大		
メンバー(公開)	上村航平、河村康正、山下智也		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡ OK

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます**。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

救急救命率向上に向けた救急コール利用縮減

※以上の課題解決のために『**何**』をするアイデアか、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

【主目的】

本アイデアの主目的は、救急救命率の向上であり、そのために救急コール（119番）数を縮減するこれを達成するために、以下の2つの課題解決策を実施する：

(1) ”不必要な救急コールの利用縮減”

- 市民が救急車や緊急医療サービスを利用する際に適切な判断を下せるよう支援

(2) ”予防救急の推進”

- 日常生活の中で健康リスクを減少させ、救急事態を未然に防ぐよう支援

【提案内容】

上記解決策実施の具体内容として、以下の情報を含む「月めくりカレンダー」を作成・配布する。

- ・「#7119」（救急安心センター）および「#8000」（小児救急相談）の利用方法・利用基準
- ・松山市の状況に合わせた、季節（月）ごとに啓発したい予防救急情報

このカレンダーは、以下の特徴と利点を備えている：

(1) ”松山市の状況をデータ分析に基づいて掲載”

- 松山市の救急活動実績データを、季節、地域、症状などの属性を軸に傾向を分析し掲載内容を決定する
- 松山市消防局が発信したい内容（これまでに発信していた内容を含む）を盛り込んで掲載内容を決定する

(2) ”月めくりや季節ごとに掲載内容を柔軟にカスタマイズ”

- 月めくりや季節ごとのカレンダーにすることで、啓発したい内容を季節の変化に合わせて掲載する
例えば、夏に件数の増える熱中症に関する啓発、冬に件数の増えるヒートショックに関する啓発など

(3) ”年齢層（特に高齢者層）や地域にあわせて内容をカスタマイズ”

- 市民（カレンダー利用者）の属性（年齢や地域）に合わせて掲載内容を変更することで、幅広い市民に訴求し、活用しやすいカレンダーとする
例えば、救急コールを占める割合の高い高齢者に向けて、分析を基に救急救命に関する内容を掲載するなど、生活環境や年代別にデータから分析したニーズに合わせた情報を掲載する

(4) ”市民生活での必要性を考え高い実用性を実現”

- カレンダーという日常的に利用されるツールを用いることで、ポスターやチラシに比べて捨てられにくく、家庭でも目に付きやすい場所に置かれる可能性を高める
- 緊急時の判断フローチャートを取り入れ、状況に応じた適切な行動を一目で理解できるようにして視覚的にわかりやすいデザインをページに盛り込む
- 市民が日頃カレンダーに期待している日常のスケジュール管理（カレンダーへの書き込み）と情報啓発の両立が可能で、情報を「**使えるもの**」として定着させる
- カレンダーの裏面には、火災・救急要請（チラシ）の情報と、みまもり安心カードの情報が書き込めるようにし、緊急時に活用できる

【実行計画】**“誰が”:**

- 松山自治体（市役所や消防本部）が主体となり、学生がデザインや内容を考案。
- 印刷業者の協力を得て、分かりやすく実用的なカレンダーを作成

“誰に”:

- 松山市民全般を対象とし、特に高齢者や子育て世帯に重点を置く

“いつ”:

- 翌年の利用を促進するために、毎年の年末から年始にかけて配布
注: カレンダー内容は、12 年間のデータ分析を取り入れた内容であり毎年作り直す必要性は低いと考える
- 9 月や 11 月に開催される“まつやま救急フェア”や“消防フェスタ”でも積極的に配布
- 多くの方にカレンダーを活用していただくために、年齢や地域によりカスタマイズ可能なカレンダーデータを PDF 化し個別印刷用に配布

“どこで”:

- 松山市全域で実施
- Web サイトへの掲載 (PDF)

“どのように”:

- 産官学連携の枠組みとして松山市で実施している「まつやまデータ利活用研究協議会」の活動としてデータを分析し、カレンダー掲載の内容を作成する

“どのような”:

- データ分析を基に、季節ごとのリスクや課題に対応する情報を選定
- シンプルで直感的なデザイン（文字数を減らし、イラストやアイコンを多用）
- フローチャート形式で、以下のような緊急時対応を掲載:
 - 緊急度が高い場合は“119”
 - 判断に迷う場合は“#7119”
 - 子どもに関する相談なら“#8000”
- 季節ごとのリスク（例：熱中症予防や感染症対策）に関する情報を盛り込む

●実行される場面**<シチュエーション 1: 高齢者の場合>**

冬の寒い日、体調不良を訴える家族がいる高齢者がカレンダーを見て「#7119」に電話し、救急車を呼ぶべきか迷う状況で助言を得る

<シチュエーション 2: 子育て世帯の場合>

夜中に子どもが発熱し、保護者が「#8000」に相談。安心して翌日まで家庭で様子を見られる対応を取る

●期待される効果

1. **#7119・#8000 の認知度と利用率向上**
市民が急な病気やけがをした時に救急時に適切な判断を行えるようになり、119 番の不適切利用を削減
2. **季節ごとに柔軟な啓発活動**
季節ごとのリスクに対応する内容を取り入れることで、市民一人ひとりに響く啓発活動が実現
3. **日常生活での情報定着**
カレンダーの特性を活かし、情報が常に目に入ることで、緊急時に迷わず行動できる環境を整備

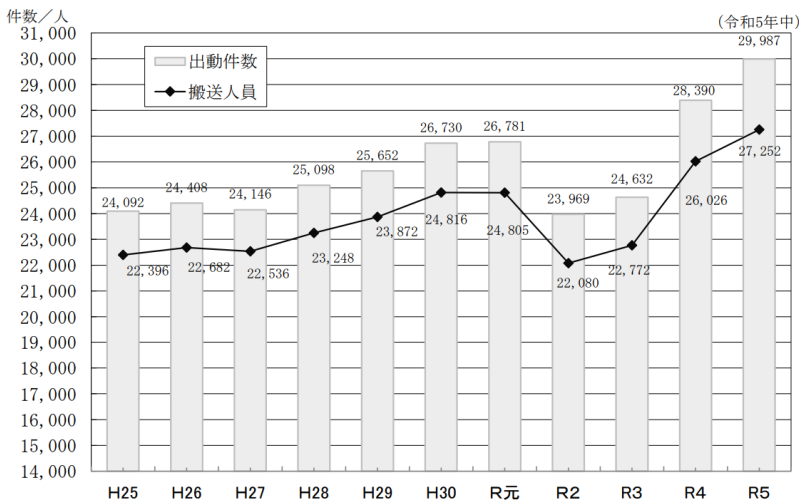
(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

【なぜこのアイデアが必要か】

“持続可能な救急医療の実現のための啓発活動”

松山市における救急出動件数は年々増加の一途を辿っており、R5 年に過去最高の 29987 件を記録した[1]。これは実に、17 分 32 秒に 1 回、救急車が出動している計算になる。特にここ数年での COVID-19 のパンデミック後、救急搬送要請の件数は顕著に増加している。対応する救急車や人員の数も増やし対応しているが、限界がある。このまま増加傾向が続けば、救急搬送の現場は逼迫し、**救命率の低下**が危惧される。持続可能な救急医療を実現するために、救急コール件数が増加している現状を改善する必要がある。具体的には、市民に対して、不必要な出動を減らすための適切な救急車利用を促す啓発と、予防救急によって未然に救急事態を防ぐことの 2 点が必要になる。

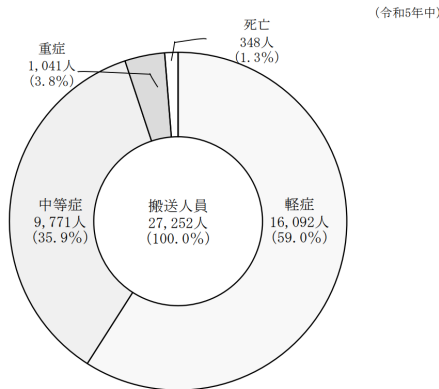


[1] 出動件数・搬送人員の推移（[松山市・消防年報 p67](#)より抜粋）

【なぜカレンダーが良いのか】

(1) “緊急性の低い救急コールの縮減・#7119, #8000 の利用促進が可能”

松山市の救急搬送の状況[2]において、傷病程度別搬送人員の割合が示されている。全体の 59%は軽症に分類される症状となっており、入院加療を必要としないものであった。実際に救急隊員に話を聴くと、この中には、「指を切った」や「足を捻挫した」、「タクシー代わりに呼んだ」など、不適切な救急要請事例もみられる。こういった事例を減らし、**救急車の適正利用を促す**が課題となっている。

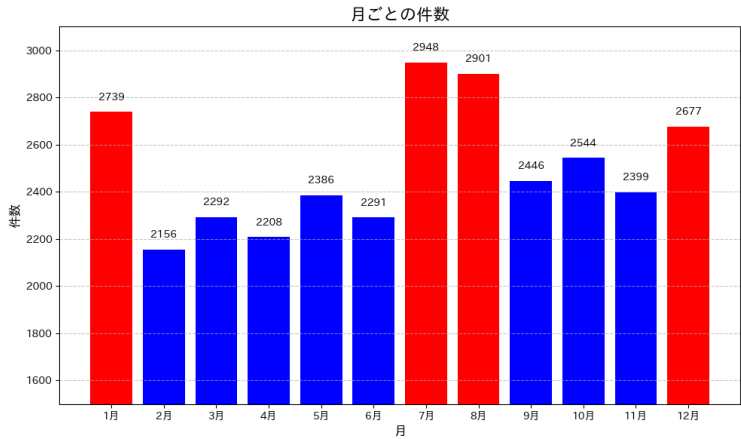


[2] 傷病程度別搬送人員の状況（[松山市・消防年報 p70](#)より抜粋）

この課題に対して行政では、救急安心センター事業（＃7119）を開始した。このダイヤルに電話をかけることで、利用者は医師や看護師に状況を相談でき、受診可能な医療機関の案内を受けることができる。また、その状況において、緊急性が高いと判断された場合、そのまま救急出動を要請することができる。また、子ども医療電話相談（＃8000）事業では、子どもの症状について適切な助言を受けることができる。松山市でも「＃7119」をR5年7月から開始したが、まだ開始から日が浅く、市民への周知は十分進んでいない。このようなサービスの周知に、**すぐ目の届く場所にあるカレンダー**を用いることで、＃7119、＃8000の利用率向上につなげ、119コールを縮減することができる。

（2）”月めくり等の形式にすることで、季節に合わせた予防救急が可能”

松山市提供の救急搬送データを、月ごとに件数を可視化した結果以下[3]に示す。上の図を見てわかるように、**夏、冬に特に件数が増加**している。夏や冬に件数が増加する一因として、熱中症やヒートショック等、特定の季節で増加する疾患による救急搬送が増加していることが考えられる。実際に松山市から提供されたR5年の救急活動に関するデータ[3]の内訳をみると、7、8月「熱中症」による搬送数は、発熱、腹痛に次いで3番目に多いことが分かった。こういった季節に応じて増える疾患に対して、特に注意を促すことが必要である。そのほか、救急コールにおいて件数の多い疾患について、予防救急として効果が大きい疾患に対しては、積極的に市民に注意喚起を促すことが必要となると考えられる。これに対し、月めくりや季節に応じたカレンダーにすることで、月ごとに、市民に対して重点的に訴求したい点を柔軟にデザインすることができる。これは前述の課題に対しても有効であり、時期に合わせて熱中症等への注意喚起をすることができる。これにより、特定の季節に関連した救急コール件数の抑制が期待できる。



[3] R5年の月ごとの救急搬送件数（松山市提供データ）

（3）”高齢者にフォーカス可能な注意喚起”

松山市消防年報[4]によると、搬送人員の中で最も高い割合を占めている年齢層は「高齢者」となっている。その割合はR5年で61.8%であり、ほとんど大半を高齢者が占めている。高齢者の人口比率が高くなり、その救急搬送が多いのは必然といえるが、反対にこの層の救急搬送を減らすことができればそのインパクトは大きい。そうなれば、（1）（2）に示した注意喚起を行う際、この**「高齢者層」にもフォーカス可能なアプローチ**である必要が求められる。カレンダーの利点は、家の目につく場所にあり、老若男女誰もが日常的に目にする点である。インターネット等デジタル媒体に比べ、高齢者層に対しての期待効果も高い。さらに、すぐに捨てられてしまう「ただのチラシ配布」と比較すると、カレンダーが「使えるもの」である事は非常に大きな意味を持つ。緊急時など焦りがちな時に、日ごろから目に入っているカレンダーの内容を思い出すことや、見るだけで簡単に参照することができ、利用者の落ち着いた対応も期待できる。

区 分	令和5年				令和4年			
	男	女	合 計	構成比	男	女	合 計	構成比
新 生 児	14	24	38	0.1%	21	10	31	0.1%
乳 幼 児	721	507	1,228	4.5%	532	363	895	3.4%
少 年	526	364	890	3.3%	446	288	734	2.8%
成 人	4,267	3,983	8,250	30.3%	4,231	3,963	8,194	31.5%
高 齢 者	7,910	8,936	16,846	61.8%	7,782	8,390	16,172	62.1%
合 計	13,438	13,814	27,252	100.0%	13,012	13,014	26,026	100.0%

[4] 年齢別・性別搬送人員の状況（松山市・消防年報 p69 より抜粋）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

【1. 実現する主体】

松山市が主体となり実施する。データ分析とカレンダーデザイン案は愛媛大学（Zenith-Mind チーム）が実施し、NEC ソリューションイノベータが支援する。これを実現するための産官学連携の枠組みとして「まつやまデータ利活用研究協議会」のワーキンググループ活動を利用する。

【2. 実現に必要な資源の大まかな規模とその現実的な調達方法】

”ヒト”

- ① Zenith-Mind
- ② 松山市消防局（数人）
- ③ 松山市総合政策部デジタル戦略課（数人）
- ④ 委託業者（カレンダーの印刷を委託）
- ⑤ 各種イベント関係者（イベントの運営を行うために必要な人）

”モノ”

- ① カレンダー用紙（印刷業者に委託）
- ② イベント会場（松山市主催のイベントを行う場所（松山市総合コミュニティセンター、ニンジニアスタジアムなど））
- ③ イベントプロモーション（チラシの作成や、サイトや SNS での宣伝）

”カネ”

カレンダーの印刷やイベントでの配布は松山市の予算内で行う

カレンダーは印刷するだけでなく地域や年齢などにパーソナライズしたものをデータ化（PDF）して Web にて配布することで低予算でも可能とする

【3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス】

目標：2026 年のカレンダーを松山市が主催のイベントで配布

2025 年

1～3 月	過去の救急データをデータ分析
4～5 月	啓蒙カレンダー作成・データ化し松山市に内容共有
6 月	業者に印刷依頼（業者とカレンダーの微調整）
8 月	カレンダー印刷完了→納品
9 月	まつやま救急フェア 2025 開催 来場者にカレンダー配布
11 月	みんなの消防フェスタ・防災シンポジウム 2025 開催 来場者にカレンダー配布

※他にも様々なイベントでカレンダー配布予定

◎2024年度に実施されたイベント一例

1. 救急フェア 2024 in ニンジニアスタジアム



概要

●啓発活動

救急車適正利用や救急医療関係のチラシと
救急啓発物品を配布

消防団活動 PR

●体験コーナー

心肺蘇生法や AED の取り扱いなど応急手当子ども用防火
服を着てキャラクターや救急車と記念撮影

●散水イベント

消防団員がフィールドで散水

[救急フェア 2024 in ニンジニアスタジアムを開催します 松山市公式ホームページ PC サイト](#)

2. みんなの消防フェスタ・防災シンポジウム 2024

概要

●防災シンポジウム

講演「地域防災力の実質化について考える」
自主防災組織活動の発表
幼年消防クラブのアトラクション

●消防体験

消火体験、ロープ渡り体験、
ポンプ車からの放水体験、降雨体験
消防マスコットカー試乗体験など

●女性防火クラブ員が飲食物を販売

うどん、いなり、マドレーヌ、ジュース、コーヒーの販売
防災クッキング展示など

[みんなの消防フェスタ・防災シンポジウム 2024 を開催します 松山市公式ホームページ PC サイト](#)